



報道発表資料の配付日時：10月13日（木）14時00分

発表項目	北海道遺産の第4回選定結果などについて		
記者レクチャー のお知らせ	(実施日時)	発表者	
		発表場所	
概要	<p>NPO法人北海道遺産協議会では、令和3年度に北海道遺産の第1回選定から20周年を迎えたことを機に、第4回となる遺産の募集・審査を行ってまいりましたが、この度、次のとおり決定しましたのでお知らせします。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>第4回選定について</p> <p>この報道発表はNPO法人北海道遺産協議会との合同発表となります。詳細については、同協議会作成の別添「北海道遺産第4回選定の決定および既存遺産の名称の変更について」をご参照いただくとともに、選定の基準など詳細についてのお問合せは、下記の同協議会までお願いします。</p> <p>【概要】</p> <p>(1) 募集期間：令和3年10月13日（道遺産の日（どーいさんの日））～令和4年2月末日</p> <p>(2) 申請件数：31件</p> <p>(3) 選定件数：6件</p> <p>(4) 公表日：令和4年10月13日（木）（どーいさんの日）</p>		
参考	北海道遺産は、 <u>第1回選定（平成13年）25件</u> 、 <u>第2回選定（平成16年）27件</u> 、 <u>第3回選定（平成30年）15件</u> 、今回の第4回選定6件と名称変更による追加1件で合計74件となります。		

報道（取材） に当たって のお願い			
他のクラブ との関係	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">同時配付</div> 同時レク	(場所)	石狩振興局記者クラブ、胆振総合振興局記者クラブ、檜山・渡島管内所在報道機関、上川記者会、十勝総合振興局記者クラブ

担当 (連絡先)	NPO法人北海道遺産協議会（担当：矢野、萩） TEL ダイヤルイン 011-218-2858 総合政策部 地域創生局 地域政策課 地域政策係（担当者：小林） TEL ダイヤルイン 011-204-5795 内線21-293		
-------------	--	--	--



2022年10月13日
NPO法人北海道遺産協議会

北海道遺産第4回選定の決定 および既存遺産の名称の変更について

NPO法人北海道遺産協議会（会長：石森秀三）は、次の世代に引き継ぎたい北海道の宝もの「北海道遺産」を推進する活動を通じて、地域遺産の普及啓発と、地域遺産を守り・伝える地域の担い手の支援を行っています。

この度、北海道遺産20周年を契機として、2021年から募集・審査を行ってまいりました、北海道遺産第4回選定の新しい遺産が決定しましたので、当協議会で、「どーいさん（道遺産）の日」としております、10月13日にWEB等にて公表いたします。

また、第1回選定、第2回選定でそれぞれ選定され、併せてひとつの名称として公表していた江差町の遺産について、この度、2つの遺産として個々に登録することとなりましたので合わせて発表いたします。

地域住民の方々をはじめとする北海道民の宝物として親しまれ、今後、より一層の地域の魅力づくりが発展していくことを願っておりますので、ぜひご取材いただきますよう、何卒よろしく願いいたします。

記

- (1) 日 時： 2022年10月13日（木）14：00
- (2) 公表場所： NPO法人北海道遺産協議会 WEB ページ
および SNS（facebook、twitter、Instagram）
- (3) 内 容： 新選定遺産6件の名称および概要。既存遺産の名称変更の概要。

以上

.....
<本発表資料のお問合せ先>

NPO法人北海道遺産協議会（担当：矢野、萩）
電 話 011-218-2858
FAX 011-232-4918

<第4回選定の概要>

1. 目的・主旨

将来にわたり豊かで魅力的な北海道とするため、今、遺産と人とのつながりを見つめ直し、持続的な関係の継続と発展に努める必要があると考えます。

北海道遺産の目的は、有形・無形のさまざまな遺産を、多様な人々がシェア（共有）する仕組みを作ること、北海道の「宝物」を次世代に継承することです。そのために、次の3つの視点を重視しています。

【ストーリー】 北海道に暮らした人々と遺産とのつながりの深さ

【担い手】 地域の人々が思い入れと主体性をもって人と遺産をつないでいること

【アクションプラン】 長きにわたって培われた遺産の価値を損なわず、かつ人と遺産とのつながりを発展させていくこと

これら3つの視点から、次世代の北海道の地域づくりを共に担う仲間を募ります。

2. 申請資格

その遺産の保全・活用に主体的に関わることができる団体（市民団体・企業・自治体等）

※所有者以外が申請を行う場合は所有者の許可が得られていること

3. 募集期間 2021年10月13日～2022年2月28日

4. 申請件数 31件

5. 審査期間 2022年3月～9月

6. 新遺産件数 6件

<新遺産の名称および概要>

1. しもかわの循環型森林文化（下川町）～森は光り輝く



下川町が目指し続けてきた持続可能な地域づくり。その基盤となる森林を生かすための理念が法正林^{※1}思想による「循環型の^{もり}森林づくり」。年間50haの伐採と植林、適正な森林管理を60年間続けることで、循環型の森林文化創造を実践している。

（※1：毎年の成長量に見合う分の立木を一定量伐採、植林することで、持続的な森林経営が実現される森林のこと）

2. 北海道米のルーツ「赤毛米」（北広島市）～人々の想いが育んだ地域の誇り



「赤毛」は、今や全国的なブランドとなった北海道米の先祖。寒さに強いこの種もみを使って、明治6（1873）年に、現在の北広島市島松の地で、中山久蔵翁が寒地稲作を成功させ、その後の北海道の米作りが発展した。「赤毛」は現在、見本田が造られ、商品開発がされるなど、地域の熱い想いにより保存され、引き継がれている。

3. 今金・美利河の金山遺跡（今金町）～^{しりべしとしべつ}後志利別川上流域の砂金採掘跡



美利河（ぴりか）地区の砂金採掘跡とその山奥にあるカニカン岳金山跡は、江戸時代前期に松前藩が行った大規模な金山開発によるものとされ、今も地表面に生々しく残る。流域沿いに10km以上遺跡が連なり、その範囲は国内最大規模。

4. 仙台藩白老元陣屋（白老町）～幕末と明治維新を生きた北の防人



蝦夷地警衛のため幕府が仙台藩に命じて安政3（1856）年に構築した、道内でも規模の大きな陣屋である。慶応4（1868）年に勃発した戊辰戦争により藩士たちが撤退するまでの12年間にわたり存続した。165年以上を経過した現在も往時の景観を残し、白老町では史跡と資料館を整備して、地域住民とともにその歴史を伝えている。

5. 十勝三股の樹海（上士幌町）～カルデラが生んだ生物多様性



約100万年前の大規模噴火でできた十勝三股カルデラは、エゾマツをはじめとする広大な森林が広がるとともに、永久凍土などの寒冷地、温泉などの地熱地帯も存在することで、多様な環境に暮らす生物が一堂に会し生物多様性を高めている。

6. 下の句かるた（北海道各地）～木札、下の句にみる遊びの文化



北海道へ入植した人々により大衆文化として道内に普及し、「木の札」であることに加え、小倉百人一首の下の句を読み上げる独特な競技は、ミステリアスな歴史の下、広く道民に親しまれてきた北海道特有の遊技である。

<既存遺産の名称変更の概要>

1. 経緯

江差町の北海道遺産「姥神大神宮渡御祭と江差追分」は、第1回選定で「姥神大神宮渡御祭」、第2回選定で「江差追分」がそれぞれ選定されていました。しかし、地域的な纏まりがあることから併せてひとつの名称として、第2回選定時に名称の決定・公表を行いました。この度、江差町から名称分離の要望を受け、地域の担い手の思い入れと主体性を重視し、人と遺産とのつながりを発展させる活動の継続を期待して、名称を変更し2つの遺産として改めて登録することとしました。

<変更後の遺産の名称および概要>

1. 姥神大神宮渡御祭～江差の歴史を伝える絢爛豪華な祭り



姥神大神宮渡御祭は、およそ370年前から続く、江差を彩る伝統ある祭り。毎年8月9日～11日に豪華絢爛な13台の山車（ヤマ）が、豊作・豊漁・無病息災を祈念して町中を練り歩く。

2. 江差追分～心沸き立つ、魂の唄



江差追分は、信州の馬子唄がルーツで日常生活の中で老若男女問わず唄い継がれてきた。「一度聞いて惚れ、二度聞いて酔い、三度聞いて涙する」といわれる唄の魅力により国内外に愛好者を持つ、北海道、日本を代表する民謡。

<北海道遺産分布図（74件）>

